

高勝寺の観世音菩薩像

(東京都指定文化財)

稲城市東長沼2111
☎0423-78-2111
発行 1995.3.20

高勝寺本堂

坂浜の真言宗豊山派に属する高勝寺には、東京都指定文化財の観世音菩薩立像が安置されています。この仏像はもとは同じ坂浜にあった妙福寺（今は廃寺）の本尊でしたが、廃寺後に高勝寺に移されたといわれます。現在は高勝寺の地蔵堂に安置されています。平安時代後半（12世紀前半頃）の制作と考えられ、常楽寺阿弥陀三尊像とともに、市内では最も古く貴重な仏像といわれます。

この仏像は、檜材を使った一木造りで、像高155.5cmの立像です。台座の上に直立し、右手は垂下して掌を前に向け、左手は前に曲げて蓮華を持っています。頭部は宝髻（まげ）を結び、眼は彫眼で作られています。左肩から右脇にかけて条帛がかかり、天衣は両肩からさがって、左右の腕にかかり、両外側に垂れ下がっています。肉身は漆箔（漆を塗った上に金箔を置くこと）、頭髪・着衣は彩色されていますが、現在はほとんど剥落し、下地がわずかに残るのみです。

構造は頭部体部を一木から彫り出し、内刳り（像内部を刳り取ること）は行われて



高勝寺の観世音菩薩像

いません。両肘^{ひじ}より先、天衣の遊離部、足先、持物は後世の作と考えられます。

一木造りという古い技法で作られていますが、伏目の穏和な表情や浅い衣文線などに藤原時代（平安時代後半期）の特色が認められます。しかし、やや細面であること、両眼がかなり鼻梁（鼻すじ）に接近していることなど、定朝様式（仏師定朝が完成した優美で調和のとれた和様仏像彫刻の様式）とは異なるところもみられます。制作年代は、これまで平安時代中期から末期まで、諸説が出されていましたが、一木造りであること、典型的な定朝様式の中に入らないことなどにより、12世紀前半頃と考えられます。

また、観世音菩薩像を収める厨子は、最近の修理で大きな改変を受けているものの、木鼻^{きびな}や中備^{ちゆうび}臺^{たい}股^{また}の彫刻絵様から、17世紀末から18世紀初頭の建築物と考えられ、観世音菩薩像とともに貴重な文化財と言えます。



頭部



胸部から腕部



観世音菩薩像が安置される地藏堂



観世音菩薩像を収める厨子（地藏堂内）